西村証券 企業調査速報

2025/02/03

[金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会]

ニチコン（コード 6996）

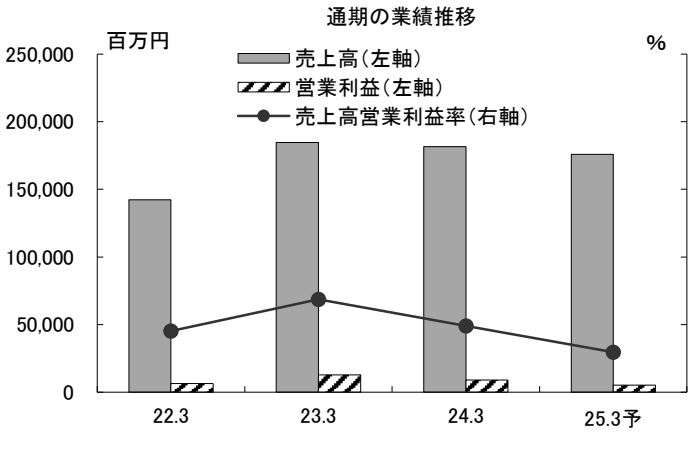
◆各決算期の中間期業績推移(連結)

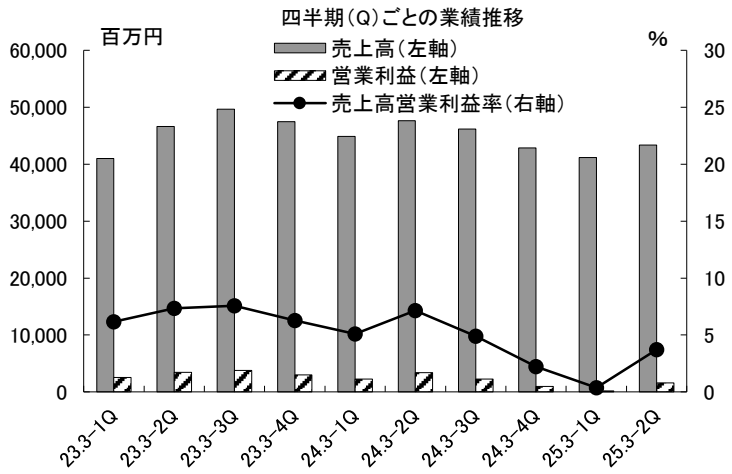
決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	87,628	5,947	40.9	14.0	1,791	▲3,492	11,571	29,177
24.3	92,555	5,689	88.5	16.0	10,617	▲8,583	1,612	29,964
25.3	84,507	1,757	59.4	17.0	7,889	▲5,404	▲3,782	28,473

◆通期業績推移(連結)（25.3 予は会社側発表値）

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	184,725	12,676	114.2	30.0	9,186	▲8,121	5,435	25,068
24.3	181,643	8,904	120.6	33.0	16,321	▲12,734	▲571	29,387
25.3予	176,000	5,200	89.2	34.0	―	―	―	―

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）





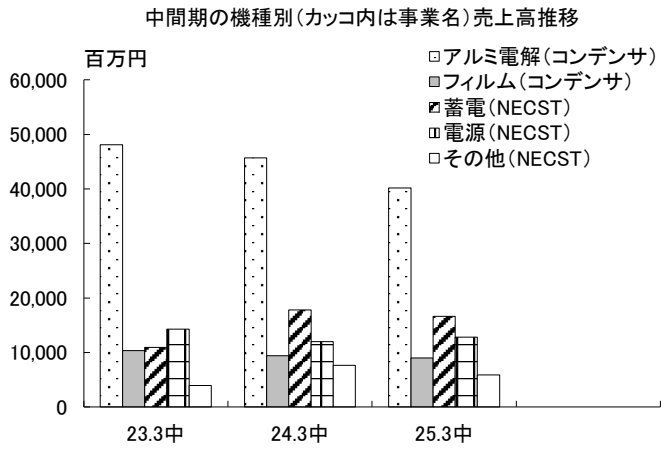
25 年 3 月期中間期の業績概況…25 年 3 月期の中間期（24 年 4～9 月）は、NECST 事業の電源は好調に推移したものの、コンデンサ事業の全般及び NECST 事業の蓄電が軟調に推移し、売上高が前年同期比で約 9%減に。利益面では、売上高の減少による稼働損に加え、円安に伴う輸入部材の高騰や人件費の上昇などが加わり、営業利益は約 70%減となった。

当期の業績は、売上高 845 億 700 万円（前年同期比 8.7%減）、営業利益 17 億 5,700 万円（同 69.1%減）、経常利益 31 億 200 万円（同 59.2%減）、親会社株主に帰属する中間純利益（以下、中間純利益）40 億 6,100 万円（同 32.9%減）となった。特別利益で投資有価証券売却益 18 億 3,800 万円（前年同期は無し）を計上したことなどにより、営業利益、経常利益に比べて中間純利益の減益率が小さくなっている。

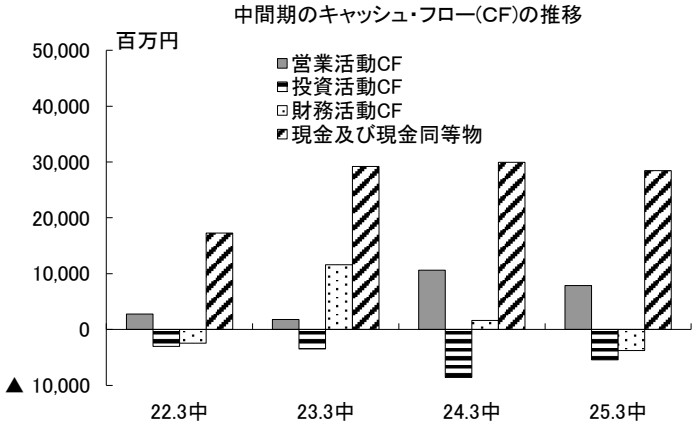
セグメント別の売上高は、コンデンサ事業 491 億 6,500 万円（前年同期比 10.7%減）、NECST 事業 353 億 4,200 万円（同 5.7%減）。コンデンサ事業の内訳は、アルミ電解コンデンサ 401 億 5,200 万円（同 12.1%減）、フィルムコンデンサ 90 億 1,300 万円（同 4.0%減）、NECST 事業の内訳は、蓄電 166 億 4,200 万円（同 6.5%減）、電源 127 億 9,900 万円（同 6.5%増）、その他 58 億 9,900 万円（同 23.2%減）となった。また、セグメント別の営業利益は、コンデンサ事業 8 億 4,900 万円（同 80.0%減）、NECST 事業 9 億 500 万円（同 37.0%減）となった。

コンデンサ事業において、アルミ電解コンデンサについては、車載関連機器向けに導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサなどの需要が拡大したほか、情報通信機器向けに生成 AI サーバーなどデータセンター用途の導電性高分子アルミ固体電解コンデンサの需要が拡大。産機

インバータやパワーコンディショナー及びエアコン用途の大型アルミ電解コンデンサは、高い在庫状況継続を背景に低調に推移した。NECST 事業において、家庭用蓄電システムは新製品導入効果などにより第 2 四半期（24 年 7～9 月）以降に販売が増加したが、V2H システムは本年度の政府補助金開始が例年より遅いことや交付条件の変更、EV 販売の停滞が影響して軟調に推移。急速充電器は EV 走行の環境整備を背景に同社製品の設置が進んでおり、研究用・医療用の大型特殊電源も年度初めから受注済み案件の立ち上げが進んで堅調に推移した。



キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末における現金及び現金同等物残高は 284 億 7,300 万円（前年同期末比 5.0%減）となった。営業活動 CF は 78 億 8,900 万円の収入（前年同期比 25.7%減）で、税金等調整前中間純利益 48 億 9,800 万円（同 35.3%減）、売上債権の減少額 46 億 9,900 万円（同 94.9%増）、棚卸資産の増加額 12 億 3,000 万円（同 23.1%減）、仕入債務の減少額 24 億 4,100 万円（前年同期は増加額 31 億 7,100 万円）などによる。投資活動 CF は 54 億 400 万円の支出（前年同期比 37.0%減）で、有形固定資産の取得による支出 71 億 1,900 万円（同 10.0%増）、投資有価証券の売却による収入 22 億 1,900 万円（前年同期は無し）などによる。財務活動 CF は 37 億 8,200 万円の支出（同 16 億 1,200 万円の収入）で、短期借入金の純減額 10 億円（同純増額 30 億円）、長期借入金の返済による支出 12 億 5,000 万円（同無し）、配当金の支払額 11 億 6,300 万円（前年同期比 6.3%増）などによる。



25 年 3 月期の業績見通し…25 年 3 月期の通期業績については、売上高 1,760 億円（前期比 3.1%減）、営業利益 52 億円（同 41.6%減）、経常利益 70 億円（同 38.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）61 億円（同 26.1%減）の見通しで、24 年 5 月 9 日付けの会社側発表値（売上高 1,850 億円、営業利益 100 億円、経常利益 110 億円、当期純利益 83 億円）から下方修正されている。セグメント別の売上高予想は、コンデンサ事業 1,000 億円（同 6.0%減。修正前 1,050 億円）、NECST 事業 760 億円（同 1.0%増。修正前 800 億円）で、コンデンサ事業の内訳は、アルミ電解コンデンサ 800 億円（同 7.6%減。修正前 850 億円）、フィルムコンデンサ 200 億円（同 1.0%増。修正無し）、NECST 事業の内訳は、蓄電 370 億円（同 8.4%増。修正前 400 億円）、電源 238 億円（同 0.2%増。修正前 218 億円）、その他 152 億円（同 12.4%減。修正前 182 億円）となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。